

たまねぎの輸入数量の増加について

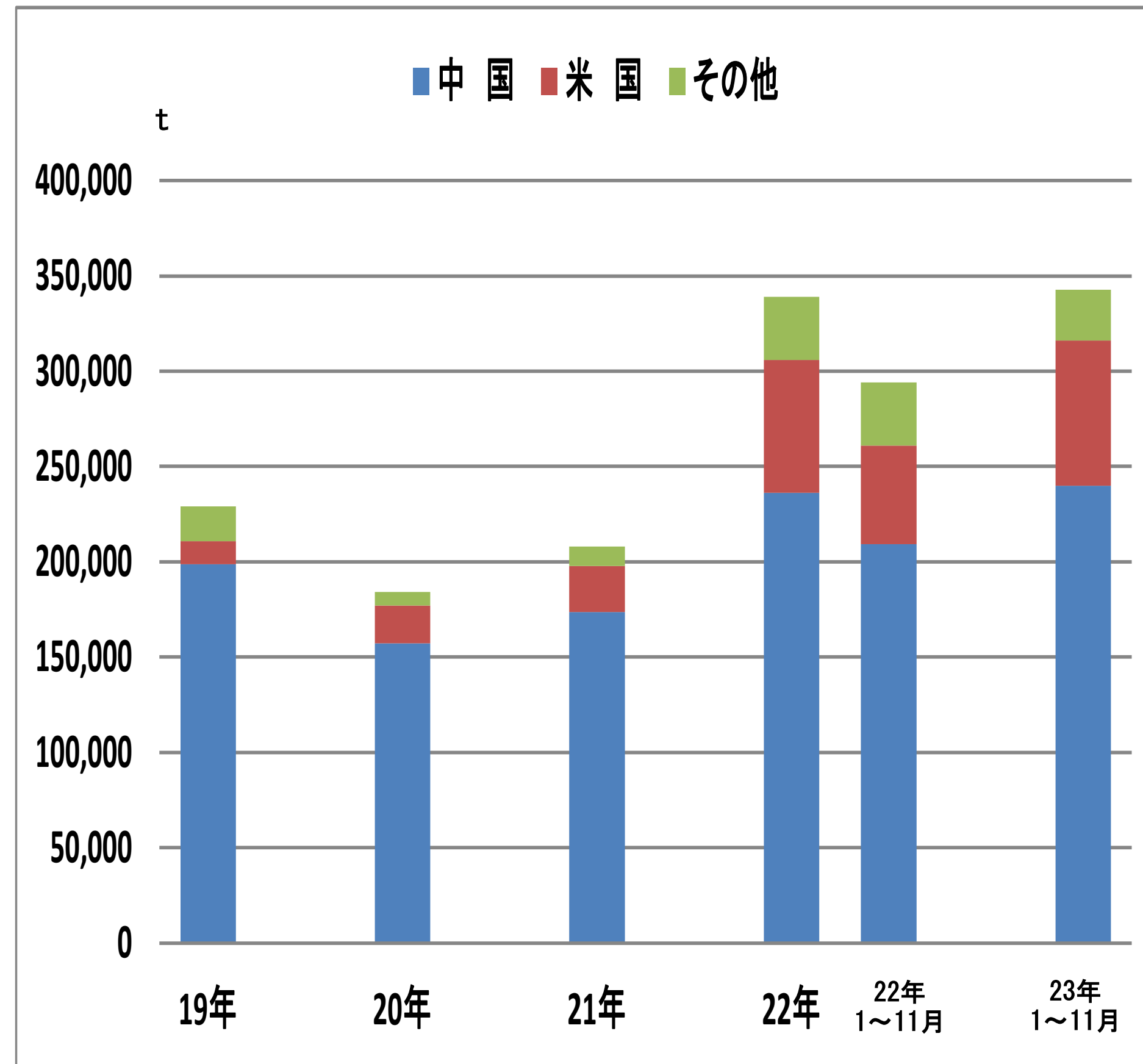
平成23年1月から11月までのたまねぎの輸入量は、前年同期比117%と前年を大幅に上回り、この5年の中でみても、最高水準となった。

これは、北海道産が22年の不作により前半の輸入量が多かったことに加え、23年産も夏場の多雨と9月の台風等の影響により不作傾向であることが影響していると思われる。

輸入国の内訳をみると、中国産の占める割合が大きいが、22年～23年にかけては、米国産が増加し、全体の2割程度を占めている。中国産はむきたまねぎが約7割を占め、主として業務用として一定の需要があるが、米国産は国内産の代替として家計消費用として量販店等で販売されているものが多い。

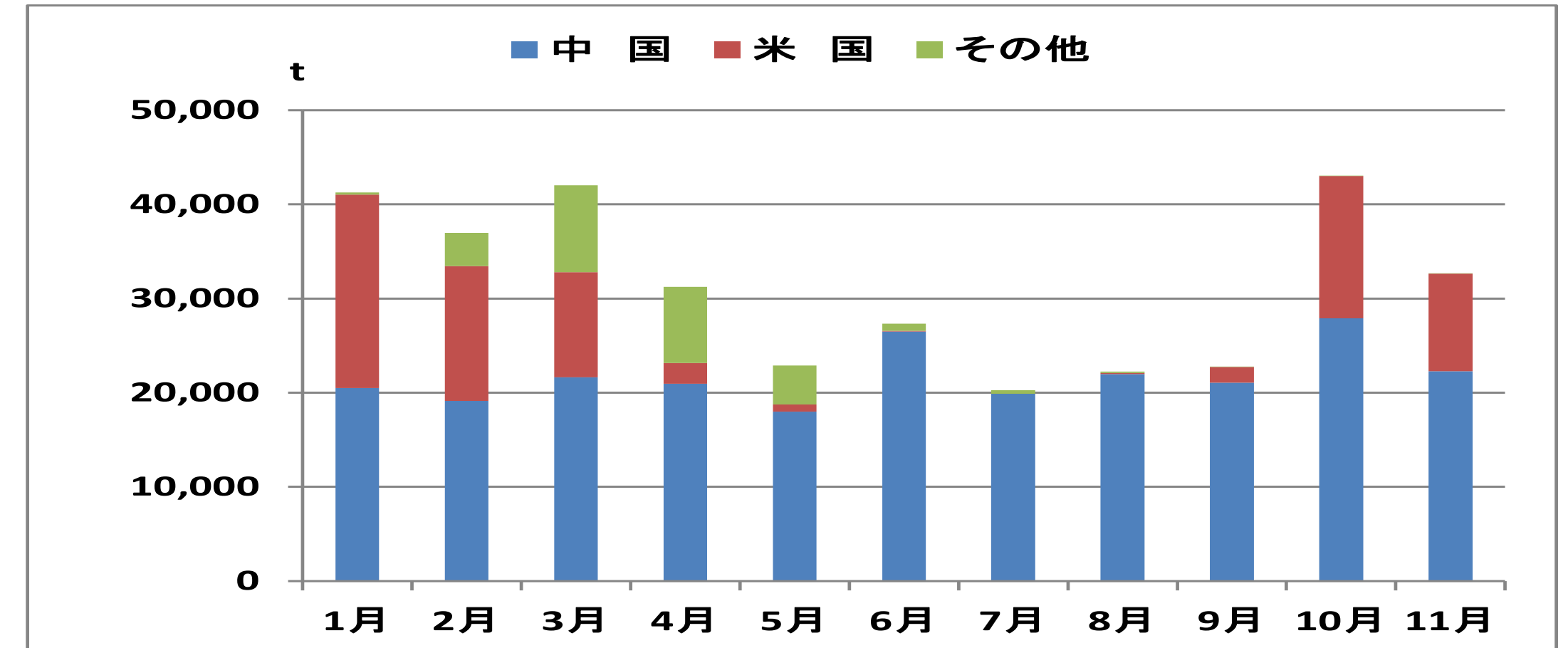
今後も、来年春までは北海道産の出荷が少なめと見込まれること、円高等の影響で輸入単価が低いこと等から、高い水準の輸入が続くことが予想される。

平成19年～23年のたまねぎの輸入数量の年別推移

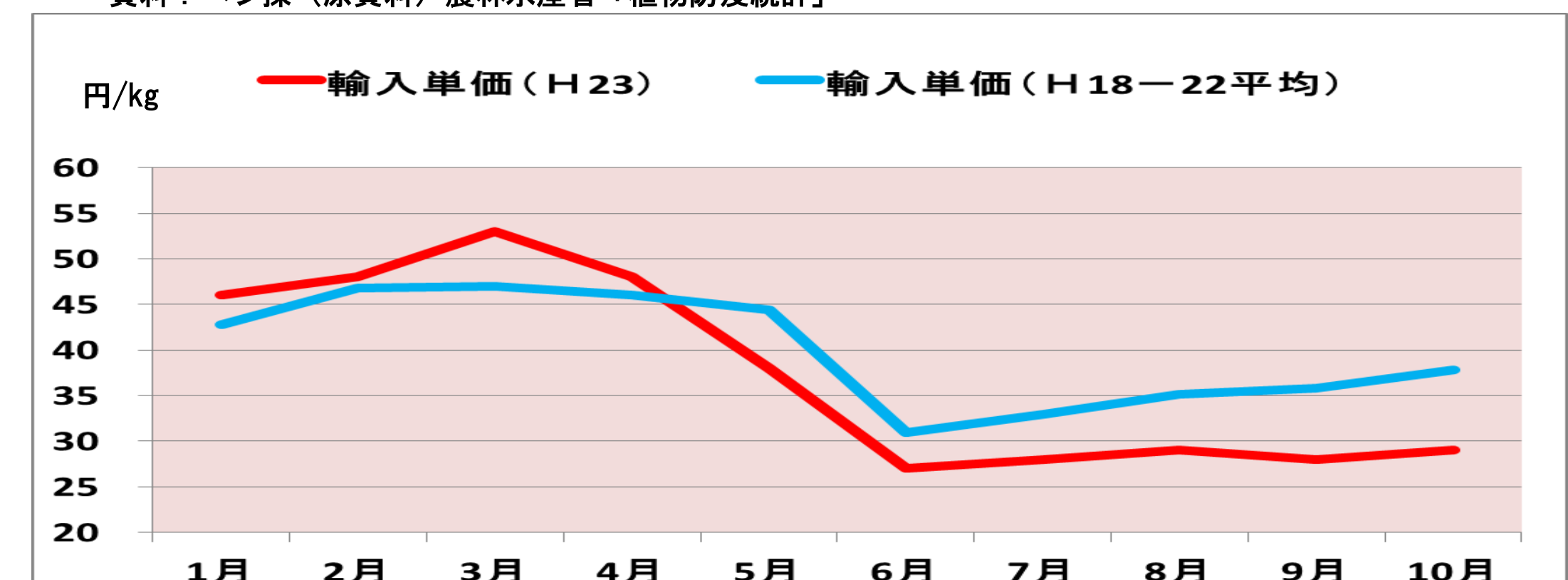


資料：ベジ探（原資料）農林水産省「植物防疫統計」

平成23年のたまねぎの輸入数量と輸入単価の月別推移



資料：ベジ探（原資料）農林水産省「植物防疫統計」



資料：ベジ探（原資料）財務省「貿易統計」

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 村野、三部、須藤 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表日にメールにてお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のお問い合わせから <https://www.alic.go.jp/form/vegetan.html>

★野菜ソムリエの旬ナビゲーション「ベジシャス」 http://www.alic.go.jp/y-suishin/yaiukyu01_000076.html